

2011年度 沖縄県NIE実践報告書



沖縄県NIE推進協議会

ごあいさつ

沖縄県NIE推進協議会
会長 山内彰

1989年に本格的に始まった日本のNIE（Newspaper in Education＝教育に新聞を）活動は、沖縄県内でも情熱あふれる教師たちにより地道な取り組みが続けられ、学校と新聞社、教育行政の連携・支援により、その効果が表れ始めています。「言語活動の充実」が掲げられた新学習指導要領の下、教育現場で新聞を活用する「NIE」は児童生徒らが「読む」「書く」「考える力」を養う格好の機会となっています。

2011年度は小禄南、宜野湾、越来、勝連、漢那、喜名、北中城の7小学校と読谷中学校、真和志高校の9校が、日本新聞協会から実践指定校の認定を受けました。地元2紙による独自の県指定校は、与那原、豊見城の2中学校です。いずれも2010年度から継続しての指定となりました。2011年9月には、実践校の担当教諭3人が新たに日本新聞協会のNIEアドバイザーに認定され、計4人体制となりました。実践経験豊かなアドバイザーを中心にNIEの取り組みがさらに広がり、これまで以上に教育現場での新聞活用が充実していくものと期待しています。

沖縄は多くの米軍基地を抱える一方、芸能や文化の独自性、スポーツで活躍する選手の話など新聞で報じられるニュースは多岐にわたり、課題も多く抱えています。その中で未来を担う子どもたちが身近なニュースに触れ、自ら考えるという学習が大切になってきます。

NIE実践校の担当教諭の実践は内容が濃く、さまざまな工夫がこらされた実践例が紹介されています。今回、このようなNIE実践校の取り組みを「2011年度報告書」にまとめました。本書の事例などを参考にいただき、県内NIE活動がさらに広がり、深まっていくことを願ってやみません。子どもたちと共に、楽しく授業に取り組んでもらえれば幸いです。

【沖縄県 NIEアドバイザー紹介】

沖縄県内には日本新聞協会が認定する「NIEアドバイザー」が4人います。NIE活動の実践経験豊かな小学校教諭2人、中学校教諭2人の計4人が、活動の普及や質を高める役割を担っています。



◆兼松力 (2011年度勤務校 与那原町立与那原中学校)

2000年にNIE実践校の実践者として活動を始め、2004年に県内初のNIEアドバイザーに就任した。「子どもの地域参加」をテーマに、投稿活動や新聞作りなど諸実践を積み重ねてきた。2012年度勤務校は、南城市立大里中学校。専門は社会科。

連絡先：南城市立大里中学校 (電話) 098-945-2442
(FAX) 098-945-1635



◆仲程俊浩 (2011年度勤務校 豊見城市立豊見城中学校)

2008年からNIE活動に関わり始め、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。親子で一つの記事について意見を深め合う「ファミリーフォーカス」を実践した。課外活動「NIEクラブ」の顧問として、昼休み時間に生徒らがニュースを校内放送する「NIEアワー」や新聞作りなどにも取り組んでいる。専門は社会科。

連絡先：豊見城市立豊見城中学校 (電話) 098-850-0036
(FAX) 098-850-3929



◆甲斐崇 (2011年度勤務校 北中城村立北中城小学校)

2008年から実践者となり、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。新聞に慣れ親しむ活動や日常的な活動、環境教育やキャリア教育で新聞を活用してきたほか、コンピュータを活用した新聞作りや、情報教育と連動した活動も展開している。NIEに関する他校の授業づくりや校内研修にも積極的に協力している。2012年度勤務校は北谷町立浜川小学校。

連絡先：北谷町立浜川小学校 (電話) 098-936-4952
(FAX) 098-936-0163



◆佐久間洋 (2011年度勤務校 宜野湾市立宜野湾小学校)

2008年からNIE活動を始め、2011年9月にNIEアドバイザーに就任した。社会の出来事に関心を持たせ言語能力を高めることを目的としてあらゆる教科や場面で新聞を活用してきた。新聞記事を活用した朝の1分間スピーチを継続し、児童の話す力や聞く力、書く力を育成してきた。2012年度勤務校は伊平屋村立伊平屋小学校。

連絡先：伊平屋村立伊平屋小学校 (電話) 0980-46-2009
(FAX) 0980-46-2665

【2011年度活動報告】

◆概略

2011年度は小学校新学習指導要領の完全実施を背景に、NIEへの関心が学校現場で非常に高まった。9月には新たに3人のアドバイザーが誕生して全4人体制となり、他校からの校内研修の要請や授業の応援などに積極的に対応することができた。地元2紙も、子ども新聞や新聞活用を促す企画に力を入れると同時に、NIE関連の新しい事業やイベントなどに取り組んだ。

2012年4月には教員を主体とする「NIE研究会」が発足した。12年度は県と連携した初のNIE教員講座を開催できるよう、準備を進めている。

◆県NIE推進協の主な活動と成果(2011年6月～2012年3月末)

- ・2011年6月17日 2010年度総会(於：沖縄タイムス社)
※事務局が沖縄タイムスから琉球新報へ移行(2012年度末まで)
- ・7月24～26日 全国大会への参加(教師、事務局13人、取材記者4人の計17人が参加)
- ・8月2日 NIEアドバイザー就任要請(山内彰会長らが4校訪問)
- ・9月14日 日本新聞協会NIE専門部で、仲程俊浩氏、佐久間洋氏、甲斐崇氏のNIEアドバイザー就任が正式決定
- ・10月17日 日本新聞協会主催「第2回いっしょに読もう!新聞コンクール」の一次審査(於：琉球新報社)
- ・11月15日 県NIEフォーラム(於：那覇市立小祿南小学校)
→全26学級で公開授業、保護者600人含む750人が参加
- ・12月10、11日 県中学校総合文化祭への参加、協力
→中学生の速報発行を両新聞社が支援、NIEの展示ブースも設置
- ・2012年2月15日 大城浩県教育長への要請活動(山内彰会長、アドバイザー、両紙編集局長)
→夏休みの短期講座の開催、全国大会への職員派遣について発言
- ・3月5日 NIE実践校最終報告会(於：琉球新報社)

【沖縄県NIE運動の経過】

- 1996年**(平成8年)
沖縄県NIE連絡会結成。
- 1999年**(平成11年)
日本新聞文化教育財団によるNIE実践指定校に那覇市立松島小、同古蔵中、県立首里東高。
- 2000年**(平成12年)
2月26日 県NIE連絡会を母体に、沖縄県NIE推進協議会設立総会。初代会長に津留健二元県教育長。事務局を沖縄タイムス社に設置。
7月 財団実践指定校に豊見城村立とよみ小、沖縄カトリック小、平良市立(現宮古市立)西辺中、東風平町立東風平中、県立首里東高、同浦添高。
7月27日 NIE全国大会(横浜市)参加。
- 2001年**(平成13年)
3月16日 県NIE推進協議会総会。津留会長再任。

5月23日 財団実践指定校に東風平中、浦添高（以上継続）、県立中部商業高（新規）。

7月26日 NIE全国大会（神戸市）参加。

2002年（平成14年）

4月5日 県NIE推進協議会総会。津留会長再任。

5月23日 財団実践指定校に県立中部商業高（継続）。

7月17日 財団実践指定校に那覇市立城北小、沖縄市立室川小、琉大附属中、沖縄尚学附属中、県立辺土名高校（以上新規）。

8月1日 NIE全国大会（札幌市）参加。

2003年（平成15年）

3月27日 県NIE推進協議会総会。会長に渡久地政吉元那覇市教育長。事務局を琉球新報社へ。

7月16日 財団実践指定校に県立那覇高（新規）、那覇市立城北小、沖縄市立室川小、琉大附属中、沖縄尚学附属中、県立辺土名高校（以上継続）。

7月31日 NIE全国大会（島根県）参加

2004年（平成16年）

7月7日 財団実践指定校に浦添市立当山小、座間味村立座間味小中校、那覇市立小禄中、同上山中、県立浦添商業高（以上新規）、同那覇高（継続）。

7月 財団が「NIEアドバイザー」制度を発足。県内から兼松力教諭が初めてNIEアドバイザーに認定される。

7月29日 NIE全国大会（新潟市）参加。

2005年（平成17年）

3月20日 「日本NIE学会」が発足。

4月27日 県NIE推進協議会総会。渡久地会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ。

5月18日 財団実践指定校に浦添市立当山小、座間味村立座間味小中校、那覇市立小禄中、同上山中、県立浦添商業高（以上継続）

7月28日 NIE全国大会（鹿児島市）参加。

11月7日 初めての「NIE週間」実施。

2006年（平成18年）

5月17日 財団実践指定校に那覇市立銘苅小学校、名護市立大宮小、沖縄三育学院中、うるま市立石川中、那覇市立石嶺中、県立向陽高、同南風原高（以上新規）。

5月25日 県NIE推進協議会総会。渡久地会長再任。

7月20日 財団実践指定校2次分に座間味村立慶留間小中。

7月27日 NIE全国大会（水戸市）参加。

2007年（平成19年）

県NIE推進協議会総会。会長に山内彰元県教育長。事務局を琉球新報社へ。

7月18日 財団実践指定校に名護市立大宮小、那覇市立銘苅小、沖縄三育学院中、うるま市立石川中学校、那覇市立石嶺中（以上継続）、糸満市立三和中学校（新規）。

7月26日 NIE全国大会（岡山市）参加。

11月10日 県NIE実践フォーラムを初めて開催（琉球新報本社）

2008年（平成20年）

7月16日 財団実践指定校にうるま市立比嘉小中、北中城村立北中城小、宜野湾市立宜野湾小、那覇市立さつき小、うるま市立高江洲中、那覇市立古蔵中、豊見城市立豊見城中（以上新規）。

7月31日 NIE全国大会（高知市）参加。

11月10日 県第2回NIE実践フォーラム開催（沖縄タイムス本社）・

2009年（平成21年）

4月17日 NIE実践中間報告会（琉球新報社内）

5月9日 NIEワークショップ（琉球新報社内）

5月18日 県NIE推進協議会総会。山内会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ。

7月30日 NIE全国大会（長野市）参加。

10月31日 県第3回NIE実践フォーラム開催（琉球新報ホール）

2010年（平成22年）

3月5日 NIE実践最終報告会（沖縄タイムス社内）

3月9日 山内会長、岸本沖縄タイムス社長、高嶺琉球新報社長らが県教育長を訪問し、大城浩統括官へNIEへの一層の理解と連携を要請。

4月 財団実践指定校の「奨励枠」に県内から初めて北中城小、宜野湾小（以上09年度財団指定校）を推薦し認定される。

財団実践指定校（新規）に沖縄市立越来小、宜野座村立漢那小、読谷村立喜納小、県立真和志高、読谷村立読谷中、那覇市立小禄南小、うるま市立勝連小の7校。

5月14日 NIEワークショップ（沖縄タイムス社内）

6月1日 県独自指定校制度が発足。協議会が4校を指定し、沖縄タイムス・琉球新報2紙を通年で提供開始。10年度は比嘉小、豊見城中（以上09年度財団指定校）、うるま市立石川中、与那原町立与那原中（以上新規）。

6月5日 九州地区事務局長会議・アドバイザー会議（熊本市）に与那嶺功事務局長、兼松力アドバイザー出席。

6月29日 県NIE推進協議会総会。山内会長再任。公認アドバイザー兼松氏。

7月29日 全国大会熊本大会に参加。（30日まで）

11月6日 第4回県NIE実践フォーラム（於：沖縄タイムス社）を開催。教育関係者、保護者ら200人が参加した。越来小が国語の授業を公開。記念講演は作家の大城貞俊さん（琉球大学准教授）。兼松力教諭、古波津聡教諭、山城銀子小禄南小校長、奥村敦子沖縄タイムス社学芸部デスク、佐藤ひろこ琉球新報社教育担当キャップをパネリスト、佐久間洋宜野湾小教諭をコーディネーターにシンポジウム「新学習指導要領とNIE」を行った。

2011年（平成23年）

2月9日 日本新聞教育文化財団の枝元一三コーディネーターを招いた特別講演会「新学習指導要領とNIE」（主催＝読谷中・喜名小、共催＝県NIE推進協）を読谷中学校体育館で開催。村内の教職員ら約120人が参加した。

2月10日 金武正八郎県教育庁に要請活動。山内彰会長、中根学沖縄タイムス社編集局長、玻名城泰山琉球新報社編集局長、兼松力アドバイザーらで、NIE活動への理解と協力を要請した。

4月 県指定校制度の継続を確認。2010年6月にパイロット事業としてスタートした沖縄タイムス社と琉球新報社による県指定校制度の継続実施を確認。5校を上限に指定予定。

【沖縄県N I E推進協議会組織】（2011年度現在）

〈会長〉	山内 彰（元沖縄県教育長）
〈顧問〉	富田詢一（琉球新報社代表取締役社長） 豊平良孝（沖縄タイムス社代表取締役社長）
〈N I Eアドバイザー〉	兼松力（与那原中学校教諭） 仲程俊浩（豊見城中学校教諭） 甲斐崇（北中城小学校教諭） 佐久間洋（宜野湾小学校教諭）
〈事務局長〉	名城知二郎（琉球新報社編集局次長）※4月から佐藤ひろこ（編集局N I E推進室記者） ※事務局は琉球新報社と沖縄タイムス社が2年交代で担当

〈会員社〉
琉球新報社▽沖縄タイムス社▽宮古毎日新聞社▽八重山毎日新聞社▽朝日新聞社（那覇総局）▽毎日新聞社（那覇支局）▽読売新聞社（那覇支局）▽日本経済新聞社（那覇支局）▽共同通信社（那覇支局）▽時事通信社（那覇支局）

※N I Eとは…「Newspaper in Education」の略称。「教育に新聞を」活動とも呼ばれ、学校などで新聞を教材にして学ぶ活動を指す。1930年代に米国で始まり、世界新聞協会によると2006年時点で、64カ国で実施されている。日本では85年の新聞大会で提唱され、学校の新聞購読料を補助するN I E実践校制度は89年にスタート。2011年度の実践校は542校に上る。

〈県内N I E実践校〉

【2011年度】

那覇市立小祿南小学校

沖縄市立越来小学校

うるま市立勝連小学校

宜野座村立漢那小学校

読谷村立喜名小学校

読谷村立読谷中学校

県立真和志高校

宜野湾市立宜野湾小学校 *全国奨励校

北中城村立北中城小学校 *全国奨励校

与那原町立与那原中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

豊見城市立豊見城中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

【2010年度】

那覇市立小祿南小学校

沖縄市立越来小学校

うるま市立勝連小学校

宜野座村立漢那小学校

読谷村立喜名小学校

読谷村立読谷中学校

県立真和志高校

宜野湾市立宜野湾小学校 *全国奨励校

北中城村立北中城小学校 *全国奨励校

うるま市立比嘉小学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

与那原町立与那原中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

うるま市立石川中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

豊見城市立豊見城中学校 ※琉球新報、沖縄タイムスを活用する県指定校

【2009年度】

那覇市立さつき小学校

那覇市立古蔵中学校

うるま市立比嘉小学校

うるま市立高江洲中学校

宜野湾市立宜野湾小学校

北中城村立北中城小学校

豊見城市立豊見城中学校

【2008年度】

那覇市立さつき小学校

那覇市立古蔵中学校

うるま市立比嘉小学校

うるま市立高江洲中学校

宜野湾市立宜野湾小学校

北中城村立北中城小学校

豊見城市立豊見城中学校

【2007年度】

那覇市立銘苅小学校

名護市立大宮小学校

糸満市立三和中学校（注1）

那覇市立石嶺中学校

うるま市立石川中学校

沖縄三育中学校

【2006年度】

那覇市立銘苅小学校

名護市立大宮小学校

座間味村立慶留間小中学校

那覇市立石嶺中学校

うるま市立石川中学校

沖縄三育中学校

県立向陽高校（注2）

県立南風原高校（注2）

【2005年度】

浦添市立当山小学校

座間味村立座間味小中学校

那覇市立小祿中学校

那覇市立上山中学校

県立浦添商業高校

【2004年度】

浦添市立当山小学校

座間味村立座間味小中学校

那覇市立小祿中学校

那覇市立上山中学校

県立那覇高校

県立浦添商業高校

【2003年度】

那覇市立城北小学校

沖縄市立室川小学校

琉球大学教育学部附属中学校

沖縄尚学高校附属中学校

県立那覇高校

県立辺土名高校

【2002年度】

那覇市立城北小学校

沖縄市立室川小学校

琉球大学教育学部附属中学校

沖縄尚学高校附属中学校

県立中部商業高校

県立辺土名高校

【2001年度】

豊見城村立とよみ小学校

沖縄カトリック小学校

平良市立西辺中学校

東風平町立東風平中学校

県立中部商業高校

県立浦添高校

【2000年度】

※沖縄県N I E推進協議会（発足）

豊見城村立とよみ小学校

沖縄カトリック小学校

平良市立西辺中学校

東風平町立東風平中学校

県立首里東高校

県立浦添高校

【1999年度】

※沖縄県N I E連絡協議会

（沖縄県N I E推進協議会の前身）

那覇市立古蔵中学校

那覇市立松島小学校

県立首里東高校

*注1＝座間味村立慶留間小中学校から
実践者異動による実践校の変更
*注2＝実践者の休職などによる指定中止
*注3＝市町村名は当時

2012年6月22日 発行

2011年度

沖縄県N I E実践報告書

編集 沖縄県N I E推進協議会

発行 沖縄県N I E推進協議会(会長 山内 彰)
事務局
〒900-8525
沖縄県那覇市天久905番地
琉球新報社編集局内
電話 098 (851) 5190

印刷
製本 新星出版
電話 098 (866) 0741
